

誦すん歎ふこと限らぬ。然るに此方も山口が籌策小執に計らるん  
 とこれらの初よ計儀を添く自君人併お言上。又も九郎次郎が偽書  
 を記ゆたる助へ借送やう。小子いう小も虚間と親奪し清例の城  
 と道出づる類よこれと計るといども。容易小道去ぐ。唯急ぐべき  
 戸初と誅戮するを肝要。倘小子を救えんと遅くまゝおその内小  
 戸初まゝ奈何する謀し。父の凶多小禍の起らん律も量まぐ。實よ  
 申すに七次款られ。斥めも密く災の根を截取と書記し。借山口の  
 使を喚出。汝へ何處の者と問。使卒齒の根とあるせつ。當國大  
 山の去民と善ふ木下流人なるや。若く織田の百姓も亦や。山口九郎  
 次郎。素より織田殿の重恩を生れり。不交する方とく却る織田  
 殿を殴んと計る。面へ恰も人小似されど。かハ獣よなると方より。汝も斯

うる人お仕へ苟おも父母が。自君と憑む織田家。對し。母の使  
 小走まて。天罰道を捕られ。汝が素姓も知る上。故郷の  
 父母の憐れよ。かよを。六親眷族一人も涉ら。其罪決くも道を。故  
 道理お味き心おも。父母兄弟の傷し。うまや。いふく。と詰て着ま  
 彼者顔色青蒼の如く。洞と共お勸解し。いふや。小奴誤ん。山にの  
 家小な。これと。斯る使お。素より。自人の逆を。あること。  
 爰おも知ら。今日。今。織の御内。存。困。勢。め。り。せ  
 う。何と。父母兄弟。咎。と。御計。以。早。仰。ぎ。せ。ら。る。と。噓。泣。し。伏  
 願。ふ。父母兄弟。安。穩。さ。る。べ。し。御。計。以。早。仰。ぎ。せ。ら。る。と。噓。泣。し。伏  
 乞。ふ。木下。所。然。と。ある。べ。し。父母兄弟。汝。を。罪。を。道。を。く  
 安。穩。の。こと。を。速。く。大。公。より。命。属。ら。る。御。用。を。楚。と。つ。と。む